

第2回遊びのプログラム等に関する専門委員会指摘事項等

【全体的事項】

- こどもの城から他の児童館が学び、他の児童館から自分の児童館が学ぶというつながりがあった中で、こどもの城が閉館されてしまい、今後どのように発信をしていくのか。これまでの取り組みについて、まずはデータ分析をきちっと行っていく。公営、民営、地域別でできる限り丁寧にクロス集計を行い有意な方向性を導き出していくことが必要ではないか。
- 民営、公営の差をなくすのは共通の研修の普及や任用の資格制度をもう少し強化していくことが大切。児童健全育成推進財団が行っている児童厚生2級指導員研修の科目の中に遊びのプログラムに関する内容を少し具体的に盛り込んでいく。あるいはプログラムを開発した方法や視点を研修に盛り込むことができないか。
- プログラムの実践状況について、民営が高く公営が低いということだが、民営にも社会福祉法人もあれば指定管理者まで様々なので、もう少し中身の分析が必要。職員の質をどのように担保していくのかが課題であり、給与及び資格の担保が必要ではないか。
- 子ども調査について、利用頻度が「ほぼ毎日」が半分であり、一方で全く児童館を利用していない子どももいて、差がある。児童館が様々な団体と連携を取りながら、地域を包括する事業を行うことが大切ではないか。
- 児童館ガイドラインの変更も踏まえて検討を進めていくことが必要ではないか。
- 科学的根拠をもって文章化していくのが目標。児童館を利用した子ども、利用しなかった子どものその後の将来、追跡調査等ができればいい。

【調査票に関する事項】

- 問A-8について、「大人」としてまとめているので、内訳を出して欲しい。
- 問B-5について、どのような遊びがはやっているのか、イベントではなくて、日常的な遊びの回答はどのようなものがあったのか教えて欲しい。
- 子どもたちの遊びについて、例えば、忙しすぎる、児童館が狭い等の遊びに関する課題に対して十分に答えきれていない、という声が見えていない。現場がどのように日常的な遊びの世界になっているのか、日常の問題をあぶり出していかなければならない。
- 問B-1、B-3にこだわらずに網をかける。県、政令市、農山村漁村などのクロス集計を行って欲しい。
- 館長の役割が見えない。館長の役割にもメスを入れられないか。

【プログラムに関する事項】

- プログラムについては、人と人が向き合って傳承することが大切。
- プログラムについては、1回でも継続してやることがすばらしい。細々とでもいいのでつなげていくことが大事。
- 貧困問題もある中、遊びと日本文化の傳承を結びつけていくことも大事。
プログラムが健全育成に効果的であるといえるように、科学的根拠を挙げていかなければならない。